



さあ、始まりました！

本日はえろいホロライブ——『えろホロ！』のお時間です！

今週も、地上波では到底お見せできない倫理観ガン無視の60分となっておりますので、皆様どうぞお楽しみください！ MCは毎度おなじみ、わたくし「セック鈴木」がお送りいたします！
本日の企画はこちら！

『ヒュプノスファック ～近親相姦編～』

さあさあ帰って参りました、説明不要の人気企画『ヒュプノスファック』でございます。

皆様がホロメンに抱く愛の形は人それぞれ……父性を感じ、娘のように思うファンもいれば、妹のように、姉のように、はたまた孫娘のように思っているファンもいることでしょう。

もちろんそれは本来なら叶い得ぬ儚き夢……

しかし！ この企画はその夢を、現実にするものです！

というわけで、登場してもらいましょう。

カーテンが開き、選ばれし四人の男達がスタジオに現れます。それぞれ父親役、兄役、弟役、そして祖父役の方々です。視聴者参加型の当企画、応募総数は軽く六桁に上ったそうですが、その狭き門を突破した幸運の持ち主が彼らです。

それではちよつと意気込みを聞いていきましょうか。

参加が決まってから、どう一日を過ごしてきましたか？

「い、いやあ……しばらくはずつと夢見心地っていうか、事あるごとに『これって本当に現実か？』って思う日々でしたよ。はい、今日まであつという間でした。もちろんそのあいだはオナ禁を続けてたつぶりザーメンを溜め込んできました」

ナイスな心意気ですね。

ではそろそろ、本日のメインヒロインを皆さんの口から紹介してもらいましょう。

はい、せーの？

「……ぼほ僕く達が家ぞ族になったつのはは……み湊ああくああっちゃやんです！」「」

あらら、まったく揃いませんでしたね。しかも向いてるカメラがバラバラだ。ああ謝らないで。素人さんだし無理もない。こういうのも参加型企画の醍醐味でしょう。

改めて紹介いたしますと……今回出演していただくホロメンは、こちら。

はい、湊あくあちゃんです。

撮影の前日からあくあちゃんには催眠をかけ、こちらの方々を本物の家族である認識させております。いつぞや登場したオラクル小林とかいう偽物とは違い、今回はガチです。あくあちゃんは彼らのことを血の繋がった家族だと思っています。

こんなドスケベ女がひとつ屋根の下にいたら、皆さんならどうしますか？ はい、そうですね。レイプ一択ですね。

ではではあ、あくあちゃんのお家に仕掛けた百台のカメラを通してその様子を見ていきましょうか。

この日、あくあちゃんは一日オフでした。

『びゃあああああくっそオ！ コンボミスったあ！ ああっやめてやめて命だけは！ あ、あたしもミスったんだからそっちも一旦ミスろ？ ね、平等にさ……あああ！』



ゲーム大好きなメイドさんは、配信がない日でもコントローラーを握って大はしゃぎです。だぼだぼのロンTの下はパンツ一丁、ぼさぼさの髪、ノーメイクの顔……うーん、油断しまくりでいいですねえ。そこへ、ピンポンとインターフォンの音。

『あれ？ 誰だろ……ウーバー頼んでないよね？』

あくあちゃんはコントローラーを置くと、玄関へ向かい……その途中でパンティ丸見えであることを思い出し、ベッドの上のショートパンツを慌てて引っ掴みました。

扉を開くと、雁首揃えた四人の家族にあくあちゃんは仰天です。

『えええ？ パ、パパにお兄ちゃんに……みんなも。ど、どうしたの？』

ふむふむ、暗示は万全のようです。あくあちゃんは突然の訪問に驚きこそすれ、彼らの存在を本物の家族として当たり前のように受け入れています。さ、ここからですよ。皆さん、台本通りに！

『そ、そのだな……東京観光のついでに、あくあの顔を見に行こうと思って、来たんだ。なあ?』

『そ、そうそう』

『そうなんだよ、お姉ちゃん!』

『久しぶりじゃのう、あくあちゃん。ふおふおふお』

あくあちゃんはマンションの廊下をきよろきよろしながら、

『と、とりあえず入って!』

あくあちゃんは彼らをお家の中に招き入れました。

四人の表情は既に変質者のそれです。完全に家族を見る目ではありません。しかしそれも無理ないこと……あくあちゃんはだぼつとした胸元からデカ乳の谷間を露出し、むちむちの太腿を惜しげもなく曝け出しています。そんな姿の推しを前にして鼻の下を伸ばしてしまふ彼らを誰が責められましよう。

しばらくはリビングで和気藹々とした時間を過ごします。

ま、ここは早送りで。

そのうちに日が暮れ、夜が訪れます。

『お、もうこんな時間か……あくあ、今日はここに泊まっていてもいいかな?』

『え? 帰ってよ』

『いいじゃないか。たまにしか会えないんだし、こういうときくらい家族水入らずで……な? 寝床なら心配するな、お父さん達は雑魚寝で構わんよ』
『うん……しょうがないなあ。ただし、目立たないようにしてよ? あたしこれでもアイドルなんだから、家族といえど男が家に出入りしてるところを見られでもしたら大変なことになっちゃう』

ま、大変なことになっちゃうのは今からなんですけどね。

さあここからが本番ですよ。

あくあちゃんが一番風呂を決めるべく、脱衣所へと入っていきます。

そこへ、兄役の男性が乱入です。あくあちゃんは半裸の格好で目を丸くしています。

『ちょ、ちよっとお兄ちゃん!?』

『しい……声出すなって、リビングに聞こえるぞお?』

兄はあくあちゃんの口を塞ぎ、人差し指を立てます。

たわわに実ったあくあちゃんのデカパイを見つめながら、

『昔っからデカかったけど……ふひっ、また一段と大きくなったなあ?』

『よ、よしてよお兄ちゃん。もう、あたし達はそういう関係じゃ……あんっ♥』

『堅いことを言うなよ……俺とお前の仲だろう?』

『んちゅ♥ んんっ……れろ♥』

あつさりと唇を奪われるあくあちゃん……

普通の兄妹ではありえないコミュニケーションですが、あくあちゃんは拒みきれずにいます。

それはなぜか、気になりますよねえ?

実はですねえ、今回のあくあちゃんは過去にお兄ちゃんとチヨメチヨメしちゃってるっていう設定なんです。そういう暗示をかけているんです。いやー催眠って便利ですねえ。

あくあちゃんは壁際まで追い込まれ、身体をいのように弄ばれます。小柄な彼女には似つかわしくない巨乳が「ぶるんっ♥」とまろび出て、兄の手の中でオモチャにされます。あくあちゃんは他の家族にバレないように必死に声を我慢しています。

『お、お兄ちゃん♥ 駄目だって♥ あたし、アイドルになったんだよ……♥』

『ああ、知ってるさ……ホロライブに入ってからお前、ますます可愛くなったよなあ。いつも画面の前で応援してたんだぞ？ スケベに揺れる、お前の胸や尻をオカズにしながらさ……ぐふふ』

兄は、顔のパーツが歪んで戻らなくなるんじゃないかと思うほどニヤつきながら、あくあちゃんの股間に手を伸ばし、おまんこに指先を挿入。ぐちゅぐちゅと掻き回し、妹の口から喘ぎ声を引き出します。

『ンおっ♥ おっ♥ らめっ♥』

『何が駄目なんだ？ あくあのこども、兄ちゃんのぶつといのを欲しがって泣いてるじゃないか……待ってる、今ぶち込んでやるからな』

『やっ♥ 待って♥ い、挿れちゃ……おとおとおお お、お、おッ♥』



口で言うほどの抵抗も見せず、あくあちゃんは兄のちんぽを受け入れてしまいます。その瞬間に顎を仰け反らせてアへ顔と化し、愛液をびちゃびちゃ撒き散らしています。性感レベルに関しては一切暗示をかけていないのに、挿入されて即イキとは……さすがはホロライブのアイドルといったところでしょうか。

念願叶って推しの……いえ、妹のおまんこをゲットした彼は、発情期のサルの如き見境のなさで狂ったように腰を振っています。

『ぐおっ……ぎ、気持ちいい！ あくた……あ、あくあのおまんこ、気持ちよすぎるだろ！ この名器使って、いつも取引先に接待とかしてんのか？ どうなんだ？ オラ、オラ！』

『そ、そんなことしてなっ♡ おっほオ♡ そこ、らめっ♡ あていしの弱いとこお♡ そんなにずこばこされたら思い出しちゃう♡ お兄ちゃんの肉オナホやってたときのこと思い出しちゃうよお♡』

あくあちゃんは兄に抱きついてへこへこ腰を振り始めます。

思い出すも何も、本当はそんな記憶など存在しないのですが……あくあちゃんの堂に入った乱れぶりを見ると、まるでこっちが化かされているような気分になってしまいますねえ。まったく、真性の淫乱はこれだから……

『ああ、懐かしいなあ……何しろ俺は、あくああのハジメテの男だからな』

『やだ♡ 言わないでえ♡』

『恥ずかしがらなくてもいいじゃないか。お前が中学生に上がったばかりの頃だったっけ……あんどときからお前は大人顔負けのドスケベボディだったよなあ。毎日お前でシコってたわ……で、ある日、我慢できなくなってレイブしたんだよな』

『そ、そうだよお……♡ こんなエロい身体してるお前が悪いって言って、お兄ちゃん……まだ処女だったあたしを乱暴に犯して、な、中出しまで……♡』

『ああ、ちよろかったよなあ。すぐに言いなりになったっけ？』

『だ、だって♡ あの頃はまだ子供で、あれがいけないことだなんて知らなかったし♡ 赤ちゃんの作り方だって、教えてくれなかったじゃん♡ 妹が無知なのをいいことに毎日オナホ扱いして……お兄ちゃん、最低だよお♡』

『あーん？ 誰に向かって口利いてんだ、おら！』

『ンほお お、おッ♡』

生意気な妹の腰をぐっと掴んで、思いっきり突き上げるような肉棒の一撃。それを立て続けに二度三度と食らわせていきます。

『誰が最低だった？ おらっもう一度言ってみろ！』

『おんっ♡ う、嘘でしゅ♡ 本当はお兄ちゃんのデカちゃん最高ですう♡』

『よしよし、ようやく昔みたいに素直になったか……ところで兄ちゃん、そろそろイきそうなんだよなあ。精液、どこに出せばいいんだっけ？』

『えっ♡ それは、あの♡ あていし、もう初潮来てるし……♡』

『だから？』

あくあちゃんは兄に顎を掴まれて「はうう♡」と負け犬顔です。

『ほら、どこに出せばいいか言ってみろ』

『う、ああ……あたし、の♡ お兄ちゃん専用まんこに、全部出してください♡』

ぶびゅ♡ ぶびゅるるるるるるる——ッ♡

『ひぐうううう♥ 出てる、奥う♥ あちゅいのがああああ♥』

言い終わるかどうかのタイミングで兄は、あくあちゃんの妹まんこに全力の放精をかましました。ちっちゃなおまんこがたちまち溺れ、結合部からザーメンが噴き出し、あくあちゃんは下品なオホ声でよがり狂います。

『うおおお、堪らねえ……俺、あくあちゃんに中出ししてる、してるうう。お、俺みたいなきモオタが、尊い尊い推しのまんこに、ガチ種付けえええ……っ!』

おっと、もはや台本どころではないようですねえ。

ま、あくあちゃんもアクメするのに忙しくて人の言葉など聞いていられないようですし、ちようどいいでしょう。可愛らしいお顔をブサイクに歪め、射精される度に律儀に「ンほッ♥」とか「あへっ♥」とか言っています。

兄は余韻を味わうかのようにゆっくりとちんぽを引き抜き、

『へへ……風呂入る前に、邪魔したな?』

盛大にアへるあくあちゃんをその場に残し、兄は去っていきました。



一仕事終えた兄を、リビングで待機していた他の家族が迎えます。本当にあくあちゃんとやれたのか……おまんこの具合はどうだった……そんなことを話していますね。その返事は、兄の満ち足りた顔を見れば聞かずともわかるでしょう。

自分の番を待ちきれず、三人とも股間を勃起させています。

しかし、出番は一人ずつです。

最後には全員参加の乱交パートを用意していますが、一対一でじっくり楽しむ時間も必要でしょうからねえ。だから皆さん、我慢ですよ。本当は今すぐにもあくあちゃんをケダモノレイプして無責任中出ししまくりたいでしょうが、我慢です。

というわけで、兄は父にバトンタッチしました。
お風呂から上がったあくあちゃんは、自室のベッドでぼうつとしています。

熱に浮かされたような顔で自らのアソコを見詰めながら、

『お兄ちゃんってば、本当に乱暴なんだから……』

どうやら先程の近親相姦に思いを馳せているようですねえ。

そこへノックの音が転がり、あくあちゃんは慌てたように顔を上げます。

『は、は、誰？』

『あくあ、パパだよ。入ってもいいかい？』

『パパ？ うん、どうぞ……どうかしたの？』

父は物憂げな面持ちをしながら娘の隣に腰を掛けます。

通常、中年オヤジにこの距離まで近づかれては、多少なりとも嫌がるのが若い娘の生理現象……しかし、彼を実の父親と誤っている今のあくあちゃんに、そんな素振りはありません。今からナニをされるとも知らずに健気なものです。

あくあちゃんはパパの顔を覗き込んで、

『さっきから黙りこくって、どうしたのパパ？』

『ああ……実はさっき、見てしまったんだ。脱衣所でな』

『へっ？』

あくあちゃんは驚きのあまり、目を点にしてしまいます。
しかしすぐには認めないようだ。

『み、見たって……何を？』

『とぼけても無駄だよ。シていただろう、脱衣所で……実の兄と！』

『ち、違うのパパ！ あれは、お兄ちゃんが無理やり……』

『無理やり？ 本当にそうかい？ あくあの顔、とっても気持ちよさそうだったけどなあ……無理やり犯されてる女が、こんなエロ顔をするか？』

父はあくあちゃんにスマホを見せつけます。

それは先程の脱衣所の光景を盗み撮りした一枚でした。

決定的な証拠にあくあちゃんは押し黙り、顔を真っ赤にしたまま俯いてしまします。

『あくあ……お前は、パパの自慢の娘だ』

父はあくあちゃんに身体を寄せ、肩を抱きます。

『一人で上京して、アイドルとして頑張っている……だが、お前の本性が近親相姦で感じまくるド変態だと知られたら、ファンはさぞ悲しむよなあ？』

『う、うん……だからパパ、このことは秘密に……』

『もちろんさ。パパがあくあの夢を壊したりするわけないだろう？ だか

ら……』

『え？』

あくあちゃんの肩に触れていた手がすすつと下っていき、娘の巨乳を驚掴みにしました。そのまま「むにゅむにゅ♥」と揉みしだき、あくあちゃんは信じられないものを見る目で父を見ます。



『なあ、いいだろうあくあ？ パパにも気持ちいいことしてくれよ』
『な、なに言ってるのババ……放して♥ んはっ♥ ああっ♥』
『こんな揉み応えのあるおっぱい、手放せるわけじゃないじゃないか……昔はあんなに細っこい娘だったのに、こんなにむちむちに育って、パパは嬉しいぞ。あくあの成長を肌で感じさせておくれ』
『や、やだっ……やめてよババ♥ 父娘でこんな、おかしいよお♥』
『なんだ、じゃあ兄妹でするのはいいのか？』
『そ、それはっ♥』

痛いところを突かれて、あくあちゃんは言葉に詰まります。
その隙に寝巻きを脱がされ、丸出しとなったおっぱいの父親の魔の手が迫ります。

ぶつくりと膨らんだ二粒のさくらんぼを摘みながら、

『おおお、なんというエロ乳首だ……こんなに勃起して』
『ひううっ♥ く、くりくりしにやいでええババあ♥』
『おや、あくあはこれが弱いのかな？ ほーれほれ……くりくり、くりくり』
『んほおおおッ……ら、めええ♥ イっちゃう♥ 乳首だけでイっちゃ……』
『パ、パパの指で♥ パパの指でええ♥ 乳首いじめられてイぐうううううう……』

あくあちゃんはお股をおっ広げ、パンティを貫通する愛液シャワーをベツドの上に撒き散らしてしまいました。相手が父親だろうとドスケベボディのクソザコぶりは健在のようです。

自らの手でイカした愛娘を腕に抱き、父は邪悪な笑みを浮かべます。
おや、何かをあくあちゃんさんの耳元で囁いたようですよ？

そして……あくあちゃんに見せつけるようにズボンを脱ぎ、勃起ペニスを
取り出しました。彼がナニをしようとしているのか、あくあちゃんは即座に
理解したようです。けれど絶頂直後の身体は言うことを聞いてくれません。

『さあ、おいであくあ……昔みたいに抱っこしながら、シてあげるね？』

父はあくあちゃんをひよいと持ち上げて、対面座位に持ち込みます。

デカケツを掴まれたまま身動きの取れないあくあちゃんは、必死に首を振
って父親の良心に訴えかけますが……そんなことをしてもオスの嗜虐心を
刺激するだけです。

『いや♥ 当たってる♥ パバのおちんぼが、アソコに♥ おまんこにい♥』

『ああ……割れ目を擦ってるだけで、あくあのおまんこが熱々になってるの
わかるよ。パバに犯されるところ想像して、興奮しているのかい？ 悪い子
だ……こりゃアレイブされても仕方ないね』

『おほっ♥ 先っぼが……は、入って、あふっ♥』

『ああ、入る、入るよお……あくあのおまんこに、パバのちんぼが！』

『お、お願っ……許して、パバ♥ パバあああああん♥』

どちゅんっ！

甘ったるい声で許しを請うあくあちゃんでしたが、父はそんな娘を容赦な
くちんほで貫きました。お互いに一瞬、襲い来る快楽を堪えるように制止し
た後……父は、弾けるような勢いでピストンを始めます。



『ンほお、おっ♡ おっ♡ おお、おッ♡』

『はあ、はあ、はあ……ッ!』

『ほ、ほんとに……入って、るううう♡ あていし♡ パパとセックスしちゃうてるうう♡』

『そうだよ、ほら……パパのちんぽが、あくあのおまんこにずっぽりだ。小さい身体でパパのを根本まで咥え込んで……偉いね、なんて孝行娘なんだ! 腰が、止まらないよ!』

『あひんっ♡ ひイ♡ ちんぽっ、しゅごっ♡ 相手、パパなのにつ♡ 気持ちよくなっちゃいけないのにい♡ 身体、勝手に動いて……あああっ♡ 自分でケツ振ってパパちゃんほ求めちゃってるよおお♡』

『まったく、お前がこんな淫乱娘だったなんてなあ……気持ちよくしてくれるなら、父親だろうが兄貴だろうが誰のちんぽでもいいわけだ?』

『ち、違うよおお♡ 違うっのにい……ふあっ♡ やべっ♡ イぐっ♡ イぎます♡』

その瞬間、凄まじい膣圧が彼の陰茎に襲いかかったのでしょう。父はあくあちゃんを抱き締めながら歯を食いしばり、懸命に射精を堪えます。台本だとソロパートは、一人につき中出し一回までですからねえ。もっと楽しむべく、父は腰の動きを止めました。

『覚えてるか、あくあ? 小さい頃、お前の夢はパパのお嫁さんだったよな?』

『そ、そんなの覚えてないよ……♡』

『いーや、確かに言っていた……その夢、今日ここで叶えてやるからな』

『ふえっ……ま、まさか♡ パパ♡』

『ああ……お嫁さんと言ったこと言ったら、そう。子作りだよな?』

『そ、それだけは駄目だよ♡ あたし、パパの子供なんだよ♡ それなのに……ンッ♡』

父は、娘に唇を重ねて口答えを封じました。

止めていた抽挿を再開し、フィニッシュに向けてスパートをかけます。

『くう、下の口は正直ってやつだなあ……あくあのおまんこ、パパのちんぽに吸いついて「早くザーメンちょうだい♡」っておねだりしてるぞ?』

『し、してない♡ してにやいいい♡』

『んー聞こえんなあ』

『んちゅぶ♡ んれろ♡ れろお……ちゅば♡ んちゅ♡』

都合の悪い返事はディープキスで掻き消して、父は射精の最終段階に入ります。がつしりとあくあちゃんを抱き締めて、絶対に逃げられないようにします。種付けの最中に外れるようなことがないように……

血の繋がった娘を強制中出して孕ませる……

父親としてこれ以上の愉悦はないでしょう。

彼は今からその幸福に与ろうとしています。

『だ、出すよお、あくたん! 一ヶ月溜め込んだどろっどろのちんぽミルク! 一滴残らず注ぎ込んでやうからねえ!』

『や、やめてえババあ♡ それだけは、それだけは駄目なの……ああっらめええええ♡』

ぶびびっ……ほびゅ♡ ほびゆる♡ びゅぽっ♡
どぶぶぶぶぶぶふううううう——ッ♡♡

『んひゃあああああああッ♥ 入って、くるうううう♥ パパのお精子が、子宮の中にいいいい♥ 孕んじやう孕んじやううう♥ パパの赤ちゃんデキちゃうよおおお♥』

『ああっそうだ！ あいつのより俺の子種で孕ませてやるんだっ！』
『ん。お。お♥ た、種付けしながらボルチオぐりぐりしないでえ♥』

長い長い射精です。

たっふりと時間をかけ、彼は金玉を空っぽにしたようです。

そのすべてを胎内で受け止めたあくあちゃんは、逸物を抜かれると同時にベッドの上に倒れ込み、無様な蟹股ポーズを取りながら「ぶびびびびっ♥」と搾りたての精液をお漏らししています。

「ひはっ……ふあ♥ バ、パパのおちんほも、お兄ちゃんのおちんほも……しゅこしゅぎ、るうう……♥ こんなことしちゃ、いけないのに……♥」



おや、もうすっかり近親相姦の虜のようです。

父は最後に娘の口まんこでお掃除フェラをさせてから、大満足のツヤツヤ顔で部屋を出ていきました。やり遂げた男の顔ですねえ。十歳は若返ったように見えますよ。

さてさてお次は……おや、もうこんな時間ですか？

名残惜しいですが、今週はここまでのようです。

この後、弟に寝込みを襲われるシーンと、お爺ちゃんに介護と称してちんぽケアをさせられるシーン、そしてクライマックスの大乱交シーンでは他のホロメンまで巻き込んだり!?□　いったいどうなるのでしょうか！

完全版のご視聴は、ご覧のURLからVIP会員登録をするだけですぐに見られます。更に過去の放送のバックナンバー、会員限定のファンイベント、応募者全員サービスのプレゼント企画など特典が満載。しかも今なら初月無料の――











